

玉葱における貯蔵性の品種間差異について

阿部定夫*・小川 勉*

ABE, S. & OGAWA, T. On the Keeping Quality of Onion Variety

本邦は夏季高温の為玉葱栽培はその95~96%が秋播栽培によつて占められ、貯蔵性の高い春播性品種の利用は極めて限定されている。その為殆んどものが貯蔵性の低い秋播性品種を用いて周年供給をする為には大幅に冷蔵に頼らねばならない現状である。また本邦の輸出玉葱は輸出先の調理や輸送性の関係から内質の緊つた貯蔵に富む玉葱に改善することが必要である。随つて貯蔵性の高い秋播性の品種を求め育種を進める事は極めて必要である。

本報は1949, 1951の両年、本邦及び米国の春播性、秋播性品種を用い、秋播栽培によつて貯蔵性の品種間差異を調べた。玉葱の品種はその形質、殊に辛味の強さによつて Strong Onion と Mild Onion とに分けられる。Strong Onion は中部ヨーロッパに中心があり北米でも之が主に栽培されており、本邦の主要品種も元々は之に属して居る。葉の横断面は半円形に近く葉色は青緑色で鱗茎の外皮が厚く、一般に色が濃く辛味が強い。一方 Mild Onion は南部ヨーロッパ帯に多く、主にスペイン、フランス、イタリー等に栽培

され、北米では西部や南部に多く作られている。葉は円形で細く、葉色はブルームがなく黄緑色であり、鱗茎の外皮薄く一般に色が淡く辛味が少ない。黄魁, Early Grano, Sweet Spanish 等が之に入る。

成績の概要 1948~49年には本邦及び米国の20品種を用い9月28日に播種したもの1区制について行い、1951~52年には同様内外品種26点を10月2日に播種し4区制とした。貯蔵には球の成熟状態を揃える事が必要であるから、すべて倒伏を完了した時か、倒伏しない品種は大半の葉が枯れて成熟に達した時に収穫し、切玉にして隙し箱に貯えた。一般的には7月から9月迄は腐敗が、9月以降は発芽が貯蔵性を左右する。

腐敗については両年共同一傾向を示し、Mild Onion は非常に早くから腐敗が始まり、Strong Onion に比し特に早期の腐敗が目立つて多く、8月迄に3~4割以上腐敗した。一方 Strong Onion の中では早生の愛知白、貝塚早生、泉州黄等や、非常に晩生で収穫期が梅雨期に遭遇する Australian Brown, 札幌黄、札幌赤等は腐敗がかなり多かつた。10月における Mild

* 九州農業試験場

Onion, Strong onion 間の差は平均 24 % で非常に高い有意差を示した。各品種群内においては白色種の方が黄色種に比較して腐敗は極めて多かつた。然し Mild Onion の黄色種と Strong Onion の白色種との間には差がなかつた。

発芽については Mild Onion と Strong onion 間に余り明かな差異は認められないが、春播性と秋播性との間には非常に大きい差があり、春播性品種は発芽が非常に遅かつた。球の形と発芽の早晚との関係は、甲の高い品種の方が発芽はおそかつた。発芽のおそかつた品種は Brigham Yellow Globe, Southport Yellow Glob, Red Wetharsfield, Australian Brown, 札幌黄等であつた。

完全球については Mild onion は非常に早くから腐敗や発芽のために少くなり、10 月末日では Strong Onion に比し平均 30 % 以上少なかつた。また秋播性

品種は 10 月以降の急速な発芽のため、12 月末には 1 割内外に減少したが、春播性品種には非常に高い貯蔵力のものであり、Red Wetharsfield, Southport Yellow Globe, Southport Red Globe 等が優れていた。

貯蔵性を支配するものは発芽と腐敗であり、腐敗については Mild Onion と Strong Onion との間の差が大きかつた。芽発については春播性品種及び甲高の品種がおそく迄発芽しなかつた。供試品種中貯蔵力の優れていたのは Red Wetharsfield, Brigham Yellow Globe, Southport Red Globe, Southport Yellow Globe 等であり、本邦秋播性品種では山口甲高が優れており、貯蔵性品種の分化しつつある事を示している。本邦の秋播地帯殊に暖地における貯蔵では、腐敗が可成支配的であり、腐敗に対する考慮が特に必要である。